



営農NEWS



ネギのネギアザミウマやネギハモグリバエの防除を実施しましょう

県内のネギ栽培は多様な作型があり、主産地では周年出荷のために、常にどこかでネギが栽培される状況となっています。このため、連作障害や難防除病害虫の発生が徐々に進行し、産地を維持する大きな課題となっています。

ネギの葉に寄生して表面を食害するネギアザミウマも、近年は多発生の傾向が続いて難防除化しています。これは、常にネギアザミウマの寄生作物が栽培されていて繁殖に有利なことや、以前には防除効果が認められていた一部の薬剤に抵抗性が発達してきたことなどが要因と考えられます。さらに、アザミウマ類など微小害虫は増殖が早く、作物のすき間などに寄生するため、一度多発生すると防除効果が上がりにくい傾向があります。なお、ネギアザミウマは越冬後の4月頃からネギ圃場に侵入、寄生し、気温上昇に伴い被害が拡大して6~8月頃に発生盛期となりますが、その後も11月頃までは寄生して、被害が続きます。

ネギハモグリバエの被害は、幼虫がネギの組織内に潜入して食害し、その痕が白いスジになります。成虫は体長2~3mmの小さなハエですが、年5~6回発生して産卵、羽化を繰り返します。ネギでの被害は、春と秋に多い傾向です。

これらの害虫は、高温少雨の気象で多発生する傾向にあります。発生初期~少発生のうちに防除を徹底してください。

<防除のポイント>

1. 育苗や本圃栽培中に処理できる粒剤やかん注剤の積極的利用

粒剤やかん注剤の処理は液剤の散布に比べ、処理労力が省力的で、持続効果も長い傾向があります。本圃生育中では、登録ある粒剤の処理後に培土を行うことで、防除効果が安定する傾向です。

2. 増殖初期における集中散布と抵抗性害虫出現への対策

アザミウマ類など微小害虫は増殖速度が速いため、増殖初期に短期間(一週間程度)で2~3回集中して農薬散布を行う防除が効果的といわれています。なお、特効的な殺虫剤を使用する場合は、抵抗性を助長させないためにも分類(コード)の異なる薬剤でローテーション散布を行い、散布後は必ずそれぞれの防除効果を確認してください。

3. 展着剤の加用と丁寧な散布作業

ネギは、薬液の付着しにくい作物です。防除効果を安定させるため、展着剤の加用が必要です。また、微小害虫は下葉や葉鞘のすき間など薬液のかかり難い所に生息するため、十分量の薬液で株全体に散布することが重要です。

表1 ネギのネギアザミウマ(アザミウマ類)、ネギハモグリバエ(ハモグリバエ類)の主な防除薬剤(平成30年5月30日現在)

薬剤名	ネギアザミウマ	ネギハモグリバエ	使用量または希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類
ベリマークSC	○	○	400倍(0.5ℓ/セルレイ等※灌注)	育苗期後半~定植当日/1回	28
	アザミウマ類	ハモグリバエ類	2,000倍(0.5ℓ/m ² 株元灌注)	(生育期)収穫7日前まで/1回	
スタークル顆粒水溶剤	○アザミウマ類	○ハモグリバエ類	50倍(0.5ℓ/セルレイ等※灌注)	定植前日~定植時/1回	4A
ベストガード粒剤	○	○	6kg/10a(植溝処理土壌混和)	定植時/1回	4A
	○		6kg/10a(株元処理)	(生育期)収穫前日まで/3回以内	
	○		50g/セルレイ等※(使用土壌約3~4ℓ)散布	定植当日/1回	
ディアナSC	○アザミウマ類	○	2,500~5,000倍	収穫前日まで/2回以内	5
アグリメック	○	○	500~1,000倍	収穫3日前まで/3回以内	6
リーフガード顆粒水和剤	○	○	1,500倍	収穫7日前まで/2回以内	14
ハチハチ乳剤	○アザミウマ類		1,000倍	収穫7日前まで/2回以内	21A
アフーム乳剤		○ハモグリバエ類	1,000倍	収穫7日前まで/3回以内	6
カスケード乳剤	○	○	4,000倍	収穫14日前まで/3回以内	15
ダイアジノン乳剤40	○アザミウマ類		700~1,200倍	収穫21日前まで/2回以内	1B
		○	1,000~2,000倍		
アクタラ顆粒水溶剤	○	○	1,000~2,000倍	収穫3日前まで/3回以内	4A
アドマイヤーフロアブル	○アザミウマ類		2,000~4,000倍	収穫14日前まで/2回以内	4A

注) 1. ※印は、セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm・使用土壌約1.5~4ℓ)を略しました。

2. 薬剤の中には、上記処理以外の登録もあります。各薬剤の成分別総使用回数を超えないよう十分に注意してください。

3. 分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040